

つくる・まもる・そだてる 淡路さわやか県土

発行：平成19年2月28日

お問い合わせ：淡路県民局県土整備部
土木土木事務所企画課担当へ
〒658-0021 洲本市塩屋2丁目4-5
TEL:0799-25-3225 FAX:0799-24-4513
http://web.pref.hyogo.jp/awaji/sumoto-do/
メールアドレス: awajikd@pref.hyogo.lg.jp

冬号
WINTER
VOL.7



淡路さわやか県土のご紹介

季刊誌「淡路さわやか県土」は、淡路島で行っている土木事業やまちづくり活動を広く県民の方に知ってもらおうと、淡路県民局県土整備部の若手メンバーが中心となり、平成17年度から年4回（春夏秋冬）発行しております。

「歴史とロマンと神話の島」を舞台に皆さんの地元を探訪し、島の原風景や豊かな自然、生き物、慣習、近代化遺産などの様々な風土資産の紹介も交え、県土整備部の取組みをご紹介させていただいております。

編集にあたっては、地域の皆さんの情報も数多く取り入れながら発行して参りたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

AWAJI ISLAND MAP

①～⑥ は掲載記事



峰は、ゆづるはの峰
あみだの峰
いや高の峰
杭草子
清少納言

風土資産6

ゆづるはこどう 諭鶴羽古道

～歴史と信仰の道～

MAP ①

みなさんは、「諭鶴羽古道」を知っていますか？

この諭鶴羽古道は表参道である南あわじ市灘黒岩～諭鶴羽神社間（登山口：黒岩バス停付近／2.0km）と裏参道である南あわじ市神代浦壁（諭鶴羽ダム）～諭鶴羽神社間（登山口：ダム右の階段／3.6km）で構成されており、道中には兵庫県最古、全国でも9番目の古さの建武銘町石が、古くは修験者たちの、現在は登山者たちの安全を見守っています。

諭鶴羽山は標高608.3m、頂上には一等三角点、山頂御旅所（春例祭時にお神輿が置かれる場所）、東屋が設置されています。頂上から少し南に

下ったところには、鎌倉時代に隆盛を極めた諭鶴羽神社があります。この神社は二千年の昔、第九代開化天皇時代に創建されたと伝えられています。その背後には兵庫県天然記念物に指定されている「アカガシ群落」が茂り、前には兵庫県の巨樹巨木で選定されている「親子杉」が仲良く並んでおり、由緒ある神社らしい神さびた雰囲気をかもし出しています。

現在は訪れる人も少なく、元旦や例祭の時に賑わいを見せるのみですが、かつては遥か太古より人々が信仰し、海の向こうからも人々が訪れた諭鶴羽山。僅かに残る古道の面影を発見しながら、登ってみてはいかがでしょうか。

花も実も見応えのある

ネズミモチ



「ネズミモチ」は、淡路の山によく生えている、モクセイ科・イボタノキ属の常緑低木である。木の高さは2m前後でよく枝分かれし、生垣に植えられている。



6月頃、新枝の先に、白い小さな花が、たくさん円錐形に集まって咲く（写真①②）。花は、短い筒で先が4裂するが、下部は筒でその上部が4裂する花冠、花冠の上の方につく2本の雄しべ、子房が花の下にある1本の雌しべから出来ている。



果実は冬に熟して紫黒色になる（写真③）。それが「ネズミの糞」に、木が「モチノキ」に似ているので、鼠糞

（ネズミモチ）と名付けられた。

実の中には1個の種があり、この種でも、挿し木でも増殖できる。

※文・写真とも洲本の植物研究家南光重毅氏が提供。

より快適な公園を目指して ～県立淡路佐野運動公園～

MAP ②

県立淡路佐野運動公園では多目的グラウンドをはじめとして、野球場や芝生のサッカーコートが多くの方々に利用されています。そして、公園を利用する皆様に気持ちよく過ごしていただくために、夏の強い日差しをよけて風通しも良い屋根付き休憩所を設置する工事を現在行っているところです。

今後は、天候に左右されずに多目的利用が可能な屋内運動施設の整備を進めるなど、より快適な公園を目指して施設を充実させて行く予定です。



県立淡路佐野運動公園



安全で安心して通行できる道づくり

～（主）大谷鮎原神代線 木曾下バイパス～

MAP ③

淡路島のほぼ中央を縦断する道路「大谷鮎原神代線」は、淡路市大谷と南あわじ市神代を結ぶ幹線道路であり、国道28号、神戸淡路鳴門自動車道の津名一宮I.C.とも接続し、交通量の多い重要な道路です。

この道路の約80%は2車線化と歩道が完成していますが、大型車両が通行するとすれ違いもできない箇所が残っています。

今回、工事を行っているのは道路脇に民家が連なっている上、見通しが悪く車のすれ違いが困難な淡路市木曾下～木曾上区間をバイパスにすることによって2車線化と歩道設置を行い、安全で快適な通行ができるようにするものです。



（平成20年度末完成予定）



▲現道



▲工事中

工事が始まる前に～用地補償のあらまし～

道路、河川、公園などの公共工事を進めるために、まず工事に必要な土地（以下、「事業用地」）の取得をおこなっています。

ここでは、事業用地を確保するため、皆さまの貴重な財産である土地を譲っていただいたり、その土地にある建物などを移転していただく時の補償の手順をご紹介します。

①工事の説明

工事の目的や内容をお知らせするために、地域の皆さまに説明会を開きます。



②測量・調査

皆さまに立ち会いいただき、土地の境界や工事に必要な土地の範囲を確認していただくとともに、建物などの調査をします。



③補償金額の算定

買取させていただく土地や、移転していただく建物などの補償金の算定を適正に行います。



④契約内容の説明

補償金の算定ができますと、皆さまにお示しし、ご理解いただけるよう説明いたします。



⑤契約

補償の内容をご了解いただけますと、書面で契約をとりかわします。



⑥建物などの移転、土地の引き渡し

建物などを工事予定地の外に移転していただき、土地の引渡しを行っていただきます。



⑦補償金の支払い

建物などを移転していただき、土地の引渡しを受けた後、補償金をお支払いします。



⑧工事の開始

新しいまちづくりのために工事が始まります。



インフォメーション

■洲本川改修だより（毎月発行中）

洲本川水系の河川激甚災害対策特別緊急事業（以下：激特事業）も3年目を迎え、護岸改修工事、橋梁架替え工事に本格的に着手し始めました。

「洲本川改修だより」では、激特事業の進捗状況や工事に関するちょっとした疑問などを取り上げながら、住民の方に少しでも洲本川水系の河川改修についてご理解をいただけるような情報発信を目指しています。

下記の配布先で、どなたでも入手することができますので、ぜひ皆さんも一度読んでみてください。

- 発行日：毎月20日頃
- 配布先：
 - ・淡路県民局…洲本土木事務所（入口カウンター）…災害復興事業室（職員に声をかけて頂ければバックナンバーもあります）
 - ・洲本市役所…建設課、企画部
 - ・洲本図書館
- インターネット：
 - ・兵庫県ホームページからもPDFのダウンロードができます。
 - ・「洲本川改修だより」はこちら…
http://web.pref.hyogo.jp/aw04/aw04_1_000000005.html



▲洲本川改修だより（毎月発行）

安全に通行していただくために ～洲本灘賀集線 災害対策工事～

MAP 4

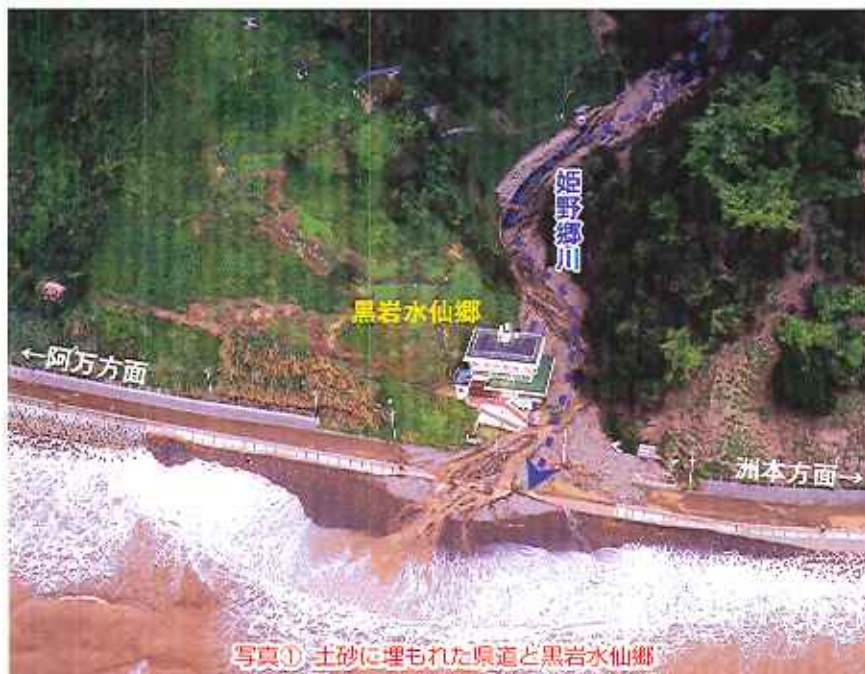
灘黒岩の水仙郷付近は、平成16年8月の豪雨や、同年10月の台風23号時に、姫野郷川からの大規模な土石崩れによって土砂に埋もれてしまいました(写真①)。

県道の下を通る直径1mの管2つ(写真②)が、上流から流れてきた大きな石で塞がれてしまったために、道路上にも土砂があふれ、大きな災害となりました。その土砂の撤去は、夜を通して行われましたが、3日間を要し、その間道路は通行止めとなりました。

このため、洲本土木事務所では、道路の下を流れる管を、大きな箱形(縦2.8m×横6.4m)にしました(写真③)。工事前から比べると流すことのできる水の量が約14倍となり、大きな石が流れてきても、被害が小さくなるようにしました。

また、土砂崩れが発生しても、現地の状況をすばやく把握

し、通行規制の情報を適切かつ迅速に提供できるよう現地に監視カメラを設置しました。この監視カメラは、周囲360度を撮影することができ、さらに夜間でも照明を点灯することで、現場の状況を監視できます。その画像データは「兵庫県道路防災情報：<http://www.mother-road.info>」で、閲覧することができます。



写真① 土砂に埋もれた県道と黒岩水仙郷



写真② 工事前



写真④ 監視カメラ



写真③ 工事後



写真⑤ 監視カメラの映像

淡路の土木・建築遺産を探ねて（第7回） MAP 5

～阿万上町の石積み塀～



淡路島の旧街道沿いにある阿万上町には昔からの古い石積み塀のある素晴らしい街並みがあります。亀岡八幡宮を中心に萬勝寺、神宮寺、大師堂、大日堂、薬師堂、観音堂と神社仏閣が建ち並ぶ古くからの街並みです。石塀の多くは、砂岩の小石を積み上げた高さ2～3m、厚さ60～80cm程度で、上部には地元の瓦を笠

木として使用しています。ご存じのように、阿万は昔から淡路瓦の産地として有名な地区でもあります。この石塀は東西に走る街路約1kmにわたり民家の塀として点在しています。神戸新聞社の調べでは、江戸時代後期から明治前期にかけての開墾で発生した大量の石が社寺や民家の塀造りに利用されたということです。近年、傷みが激しい箇所が目につくようになりましたが、今日ではこのような石積み塀を施工できる職人もおらず、修理費用も高つくため、ブロック積みの塀にとって代わられつつあります。淡路では珍しいこの石積み塀を何とか保存したいものです。

(写真提供：ひょうごレジャー情報(HPO)淡路 中野 孝彦氏)

ふるさとの風景

MAP 6

淡路鉄道から始まった(その7)

広田駅と長田駅の間(通称：長田の坂)は25%（パーミル：1,000mにつき25m登る勾配、国道28号の中山峠は約40%）の最大勾配区間で当時は乗客自らが車両を押して登ったとの記事も残っているところ。並行して走っていた道路にとっても通行の難所で鉄道廃止後、直ちに改良計画が策定されました。

倭文長田の区間では県の現道拡幅案に対して地元から鉄道敷地を活用したバイパス案が出され、今で言うところの“参画と協働”の話し合いのもとにバイパス計画がまとめられ、昭和47年に3.3kmの洲本西淡線(現洲本松帆線)が開通しました。



最大の難所 長田の坂 (写真提供：淡路交通)



つくる・まもる・そだてる 淡路さわやか県土

お問い合わせ：淡路県民局国土整備部
洲本土事務所企画調整担当へ
〒658-0021 洲本市支店2丁目4-5
TEL.0799-28-3225 FAX.0799-24-4513
http://web.pref.hyogo.jp/awaji/sumoto/cdc/
メールアドレス：zwa_iko@pref.hyogo.jp

発行：平成19年7月19日



MAP



大正4年 設計着手
大正14年 設計完成
大正15年 工事着手
昭和7年 竣工

風土資産

上田池ダム

～淡路の近代ダム第1号～

淡路島では古くから農業の灌漑用水をため池に頼ってきました。現在水田が広がる三原平野でもそれは同じでたくさんのため池がありました。しかし、一旦干ばつが起きるとため池の水もなくなり、水不足で稲が枯れることも多く、水を巡って争いが起きたり、農業経営が困難になって村民が都会へ出て行く過疎化が進んでいました。そこで大正4年（1915年）、神代・市・板列の3地区の「灌漑用水に困らない大きなため池がほしい」という要望により、上田池ダムは淡路における近代的ダムの記念すべき第1号として総事業費約98万円（現在の10億円程度）をかけ、兵庫県技師が苦勞の上設計を行い、大正15年（1926年）から昭和7年

（1932年）という6年もの長い年月をかけて築造しました。

こうして完成した上田池ダムは高さ41.5m、長さ131.0m、貯水量144万m³という巨大なもので、南あわじ市神代・市・板列の内、三原川左岸に広がる538haの水田の農業用水を担っています。

またこのダムは租石モルタル造（石の隙間をモルタルで詰めて積み上げていく工法）で造られている農業用ダムの中では日本最大の高さを持ち、全国で10件しかない戦前の農業用コンクリートダムのひとつとなっています。

※モルタル：砂とセメントを水で混ぜ合わせたもの。接着剤として使用している。

AWAJI ISLAND MAP

①～⑧は掲載記事



自然・共生・淡路島①

ハクセンシオマネキ(スナガニ科)



潮が引いた河口の干潟はカニや貝、水辺の野鳥など生き物たちのパラダイス。

それらの中でも目を引くのが、甲幅2cm余りで片手だけ極めて大きなハサミを持つハクセンシオマネキ。よく目立つ大きなハサミはオスだけの特徴で、メスのハサミは小さくて左右同寸。写真のオスは右手が大きい、サウスポールの個体もいる。

オスはこの白いハサミを振り上げてメスにプロポーズするが、その様子が白い扇（ハクセン）で潮を招いているように見えるところからハクセンシオマネキの名が付いた。

かつては洲本川の河口域でも見られたようだが、現在島内で生息が確認されているのは成ヶ島の入江と淡路市及び南あわじ市沿岸部の河口。

数年前、旧津名町の港湾整備予定地で本種の生息が確認され、数度の移転作業が行われた。昨年秋には淡路市の橋梁工事の予定地でも本種が発見されたが、市役所の職員や小学生の協力を得て移転作業を実施後、施工方法も共生に向けて一部変更するなど工事中も細心の注意が払われた。

先ごろ工事は完成を見たが、予測通り現地では多数のハクセンシオマネキが巣穴から姿を出して元気に活動していた。

Photo&Text：豊田邦明氏（兵庫県自然保護指導員・ネイチャー・アソシエーション/自然研(NSI)代表）

「よみがえれ!!生き物あふれる水辺」

今から3年前、2級河川洲本川流域は台風23号による豪雨と暴風によって甚大な被害を受けました。この被害からいち早く復興するため、被災した河川を改良する河川改修工事を行っています。



MAP

猪鼻川（河川災害関連事業）平成19年3月完了



MAP

鮎屋川（河川災害関連事業）平成19年6月完了



MAP

奥畑川（河川災害復旧助成事業）平成19年9月完了予定



千草川の上流に位置する猪鼻川は、被災前から緑豊かな地域で、川の中にはカワムツ、テナガエビ、シマドジョウ等様々な生物が棲み、森の中にはシカ、イノシシ等が生息しています。

自然に恵まれた環境と河川を調和するため「自然とともに生きる川づくり」をテーマに石積み護岸により景観を守り、川底に自然石を並べ、瀬や淵を形成しています。川沿いにはキャンプ場、山の神の木（千草ホルトノキ）があります。一度、川とふれあいに訪れてはいかがでしょうか。

鮎屋川は南あわじ市広田と洲本市鮎屋をまたいでいる河川で、洲本川より上流に位置します。この地区は蛇行部周辺を中心に浸水被害を受けました。そこで蛇行部をショートカットし、河川幅を広くする工事を行いました。この地区ではゲンジホタルが飛び交う清流でしたが、23号の災害によりホタルが激減しました。そこで、ホタルが舞う清流を取り戻すため、護岸にはホタルの幼虫がよじ登れるよう特殊なブロックを使用しています。

ホタルが舞う場所は「堂の郷」として手づくり広場を地域と協働で造りました。この場所では5月中旬～6月初旬に成虫が光を放ちながら舞っています。事業区間の最上流部では楠の木大明神、さらに上流には鮎屋の滝、鮎屋川ダムもあります。

洲本市上内膳・納地区では上流の大財池が決壊し、大量の土砂が下流に流失し、河道を埋めてしまい、豪雨による大量の水が、三洋電機をはじめとして家屋の流失、田をえぐるなど甚大な被害を受けました。

もともと自然豊かな川で、様々な生物が暮らしていました。被災後はほとんどなくなりましたが、将来生物が戻ってくることを期待して、護岸ブロックを隙間のあるタイプにして草が生えやすいようにし、落差がある箇所では魚が川を上ることができるように魚道を設置するなど、環境に配慮しています。

川の様子は河川と平行している県道鳥飼浦洲本線からも見えます。

災害に備えて情報収集を!

洪水や土砂災害などの防止と被害の軽減のためには、住民と行政が常に防災情報を共有することが大切です。兵庫県では、防災に関するさまざまな情報を、ハザードマップやインターネット、広報誌などさまざまな手段で提供していますが、今回はインターネットによる防災情報をご紹介します。

行政側の「知らせる努力」と住民側の「知る努力」の相乗効果で被害を最小限に食い止めましょう。



・兵庫県CGハザードマップ

(<http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/hazmap/top.htm>)
自然災害に対する県民の防災知識の向上を図るとともに、災害の発生が予想される際のより的確かつ迅速な避難行動が可能となるよう兵庫県が作成したホームページです。洪水、土砂災害、津波、高潮について分かりやすく動画で学習するページとそれらの防災情報マップから構成されています。子供にもわかりやすく作られています。

※ハザードマップとは、地震、津波、台風、洪水、火山噴火などの自然災害が発生した場合を想定し、各地域の災害による被害を予想した地域のことです。災害発生時にどのような被害がどのような危険があるか、また災害時における避難経路や避難ルートの確認ができます。



・防災心得

(http://web.pref.hyogo.jp/pa17/pa17_000000060.html)
災害に備えた必需品、災害が起きたらどう行動するか、家庭での防災対策等について、兵庫県がわかりやすくまとめています。



・兵庫県神戸市 防災・災害情報 関連のサイトリンク集

(http://kobe-marj.maxs.jp/hyogo/link/link_900.htm)
国、兵庫県、神戸市等の防災情報、気象・地震・津波・台風・土砂災害情報等の各種情報提供先のリンク集です。防災・災害情報を得るには、ここもおすすです。

インフォメーション

● 諭鶴羽ダムふれあいフェスタ ●

夏休みのひととき、森や湖に親しみ、心身をリフレッシュし、明日への活力を養いましょう。

諭鶴羽ダムで、森や湖に親しむ機会を提供し、森林やダム、河川等の重要性について、関心を高め、理解を深める「森と湖に親しむ旬間」(7月21日～31日)の行事の一環として、同フェスタを開催します。

- 日時/7月25日(水)午後1時～4時まで
雨天中止(順延なし)※当日8時に決定
- 場所/諭鶴羽ダム周辺、南あわじ市サイクリングターミナル(南あわじ市神代浦壟)
- 内容/ウォークラリー(小学生対象)
ダム見学・湖上巡視体験(人数制限あり)
イベント[キックターゲット等のアトラクション(内容の変更あり)]

参加者には記念品をプレゼント

- 問い合わせ先/洲本土木事務所
三原川水系ダム統合管理所 ☎0799-52-2929



● 淡路さわやか県民局 「出前講座」 ●

県民局の職員が現地に出向き、みなさんの目線に立った身近でわかりやすい県政を参考と協働のもとで進めるため、県政等について、ご説明する出前講座です。

県土整備部では「みち・かわ・みなとのななし」「ダムのはなし」「緑花学習教室「公園島をめざして」「淡路の住まいの安全についての話」の講座を行っています。

15人以上の参加人数があれば、淡路県民局管内どこでも出向きますので、お気軽に申し込みください。

- 問い合わせ先/淡路県民局企画調整部企画調整課 ☎0799-26-2009

- ホームページ/
http://web.pref.hyogo.jp/aw01/aw01_1_000000001.html#D3

淡路島の湧水・名水

湧き水は、遙か昔から、地域の人々の生活用水として利用され、また信仰の対象ともされてきました。そうした湧き水が淡路島にも多くあります。



■「広田の寒泉」MAP②

古くは仁徳天皇行幸のおりに奉獻したという言い伝えがあるほどの名水。また、何千年も昔から減ることがない不思議な水だと言われています。現在でも、由緒ある場所として、地域の方々で大切に守られています。

■「大師の水」MAP②

古くから万病や五穀豊穡を願う信仰水とされてきたと伝えられている湧き水。ここから湧き出る水は硬度が高い名水として知名度が高く、汲みこくる人も絶えないそうです。

■「湯谷薬師の水」MAP②

この辺りは昔苦難の峠であったため、この峠を越える人々ののどを潤すとともに、一滴万倍のご利益がある名水とされています。現在でも、地域の人々に利用されています。

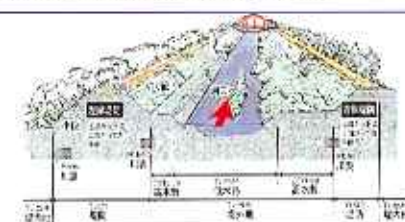
このほかにも淡路島には、数々の湧き水があり、それぞれに古くからの言い伝えが残っているようです。一度「淡路島湧き水めぐり」を試してみたいかたがでしょうか。

- 「広田の寒泉」… 南あわじ市広田中庄(四国化工工場近く)
- 「大師の水」… 淡路市大町下(バス停下大町から徒歩約20分)
- 「湯谷薬師の水」… 洲本市中川町市原(バス等薬師前すぐ)



土木用語集

意外と難しい土木用語。そんな土木用語について少しずつ紹介していくコーナーです。今回は、河川に関する用語です。

用語	解説
計画高水位	河川整備の目標としている水位。この水位以下の水を安全に流すよう堤防に設計される。(H.W.Lと記される)
堤外・堤内	堤防の河川側が「堤外」、堤防によって洪水氾濫から守られている住居や農地のある側を「堤内」という。
左岸・右岸	河川を上流から下流に向かって左側が「左岸」、右側が「右岸」。
みお筋	平時に流水が流れている道筋。本来に川が自然につくる道筋。
T・P	地図に示される標高。東京湾の平均海面高が基準となっている。
出水期	川が氾濫する危険のある6月～10月までの5か月。
洗掘	激しい川の流れや波浪などにより、堤防の土が削り取られること。洗掘が広がると堤防が弱くなり、破堤する。
破堤	堤防が陥没し、川の水が堤防から流れ出すこと。
その他	

淡路の土木・建築遺産を探ねて(第8回) MAP②

～三熊山洲本城～

洲本市街地南西部、標高133mの三熊山山頂に築かれた洲本城には、西日本最大といわれる東西800m南北600mに渡る広大な石垣遺構が本丸を含め今も残っており、平成11年には国指定の史跡になっています。北斜面は急峻で、東部は紀伊水道、本丸から南西には三熊山の由来となった高熊山(西の丸部分)、乙熊山(西の丸の南方の峰)、虎熊山(乙熊山の南西の小さい山)の三山があり、天然の要害となっています。

1500年代初頭、熊野水軍の安宅氏によって紀伊水道・大阪湾を制する水軍の城として築城されて以後、秀吉の四国攻めの前線基地となる等重要な戦略基地でした。現在に残る壮大な山城洲本城は、1585年から24年間城主であった脇坂氏が朝鮮の役で得た築城法を応用し築きました。隅角部の積み方から最も古い石垣は東の丸二段の郭(おし)にあります。

本丸台や天守台には割石を横位置に積んだ慶長時代の穴太積みという技法が用いられています。また下の城から山上の城へ結ぶ階段状に築かれた「登り石垣」は洲本城独特の構築で見所の一つとなっています。



(※)郭一城のかいこので。

ふるさとの風景

淡路鉄道から始まった(その8) MAP②

今回は鉄道敷地が学校に作り変えられたお話です。昭和40年頃の複列小学校は老朽化に加えて倭文地区との合併で生徒数が400人を超えていたため、一人あたりのグラウンド面積が9㎡と三原町内で最も狭い状態となっていました。また、西を県道竹谷三原線(今の太谷船原神代線)、南北を町道、東を民地・鉄道に囲まれていたため、改築に際しておのころ神社東側への移転も含めて熱い議論が交わされました。

しかし、鉄道が廃止となって隣接する方々の協力もあり拡張の目処が立ったことから、現在の位置で建て替えることになりました。敷地の拡張とともに順次2階建校舎、体育館、3階建校舎が建てられ、昭和56年には昭和4年建造当時島内唯一を誇った鉄筋2階建校舎が取り壊されて広いグラウンドが確保されました。

現在では少子化も手伝って一人あたりグラウンド面積が当時の約3倍に改善されましたが、教育環境の改善に取り組みされた方々のことを忘れないようにしたいものです。



三原川と丸山(右前)を望む(写真提供:森田氏)



複列小学校旧鉄筋校舎(三原町史記「心算」より)



「11月18日は「土の日」！」

季刊誌「淡路さわやか県土」は、淡路県民局県土整備部の若手メンバーが中心となって、年4回を基本として春夏秋冬に発行しています。島の風景や豊かな自然、生き物、近代化遺産などの様々な県土資産の紹介も交えて、土木事業やまちづくりをお伝えしていく手作り紙面です。

今号は11月18日の「土の日」特集号です。土木工事には大きな機械から小さな機械まで様々な建設機械が使用されます。裏面の特集では、皆さんが知っているようで意外と知らない建設機械の紹介をしています。また、なぜ11月18日が「土の日」とされているのかの答えも裏面にありますよ。

インフォメーション

●洲本川激特事業オープンハウスの開催●

- 日時：11月18日～12月16日まで常設
10:00～16:00（図書館休館日は除く）
 - 場所：洲本市立洲本図書館内
 - 内容：洲本川の歴史、H16年台風23号の被害状況、洲本川水系の河川改修事業の概要などをパネルや映像で紹介。
※11月18日にはオープニング土木の日イベントあり!!
- 【オープンハウスとは】
 オープンハウスとは米国の公共事業などで行われている市民との対話手法の一つです。会場にパネル等を展示し、個別対話により住民の方々のご意見を把握することが出来ます。

AWAJI ISLAND MAP



MAPO

点灯日が記されたプレート

震災でずれた石積み

風土資産⑧ 明石海峡を守る江崎灯台

淡路島の最北、約140年もの昔から明石海峡を見下ろし、航行するたくさんの船の安全を守っている白亜の灯台、江崎灯台を知っていますか？

この江崎灯台は日米修好通商条約に則って開港された神戸港の備えとして徳川幕府が造ったもので、イギリス人技師リチャード・ヘンリー・ブライトンによって設計されました。日本で8番目に建設された洋式灯台で、石造りの灯台としては3番目に古い灯台です。1871年（明治4年）4月27日に初点灯し、その後長年にわたって当時のままの姿を残していました。

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震によって野島断層の北端部に位置する江崎灯台も大きな被害を

受けました。また「淡路サンセットライン（県道福良江井岩屋線）」沿いの「緑の道しるべ 江崎公園」横から灯台まで石積みの階段が続いていますが、震災前にはほぼ一直線だったこの階段を下から見上げてみると断層の影響により、途中で左右に大きくずれているのが確認できます。

この江崎灯台では震災の痕跡を後世の人々に伝えるため、当時の状況を出来るだけ残すとともに補修及び耐震補強がされました。現在でも灯台の壁の石積みがずれた跡など震災の爪跡を確認することができます。

震災を経てなお現在も江崎灯台は昔変わらぬ美しく美しい姿で、船の行き交う明石海峡を見守っています。

自然・共生・淡路島②

オミナエシ（オミナエシ科）



オミナエシは、山野の日当たりのよい草地に生える多年草で、秋の七草の一つ。

淡路島では、山間部の棚田の畔や山裾などに自生していたが、農業従事者の高齢化による放棄田の増加や、大規模な圃場整備により、めっきり姿を見かけなくなった。

とりわけ、生産基盤を改善し、作業効率を高める為とはいえ、景観のみならず里地の生態系を一変させる圃場整備は、これまでの反省から環境保全面からの配慮もなされるようになってきた。

今春、淡路市山田地区で実施された県営圃場整備事業で、造成時の法面処理に、外来種の緑化資材を用いないことに加え、現地に生えていた植物の根や種子を含んだ表土を用いることをアドバイスした。経過は順調で、植生の回復と侵食防止の両面で明らかに効果が認められる。

表土を保全し、植生復元に活用することによって、島内各地の棚田や圃場整備田で、オミナエシをはじめとする里地の植物が、途からず復活してくることを期待したい。

Photo&Text：豊田邦明（兵庫県自然保護指導員・環境省自然公園指導員・ネイチャー・アソシエーション/自然研（NSI）代表）

■大森谷橋（洲本川激特事業）「渡り初め」式（9月16日）

MAPO

平成16年の台風23号により流失し、昨年より新橋の架設工事を進めてきた「大森谷橋」が完成し、9月16日に大森谷、上桑間両地元町内会により「渡り初め」式が開催されました。

当日は、橋の流失により約2年間通学に不便を強いられてきた地元の小学生を先頭に、「渡り初め」が行われました。橋の幅員が2.5mから4mに広がり、車も人も、より安全に通行できるようになりました。

洲本川の激特事業では、平成21年度までに橋梁15橋を架け替える計画ですが、今回の「大森谷橋」が第1号の完成となりました。



新しい大森谷橋（橋長44.16m、幅員4.0m）



洪水により流失した旧大森谷橋

小学生による「渡り初め」

■洲本川水系 奥畑川（河川災害復旧助成事業）竣工式（10月20日）

MAPO



完成した奥畑川



サクラの記念植樹



復興記念広場

平成16年10月に被害を受けた洲本市上内船・納地区に位置する奥畑川が平成19年10月に竣工しました。

台風23号に襲われた日からちょうど3年目にあたる平成19年10月20日に奥畑川竣工式を復興記念広場で行いました。

当日は竣工記念碑の除幕、サクラの記念植樹を行いました。

この河川改修事業に合わせて県道鳥飼清洲本線の道路改良、大財上池（ため池）の復旧も同時に行いました。

11月18日は土木の日 ~土木の日をご存じですか?~

くらしを支える土木の世界をみなさんに正しく理解していただくため、11月18日を「土木の日」とすることが昭和62年に定められました。11と18という数字を漢字で書いてみると、「十」と「一」で「土」、「十」と「八」で「木」という字で成り立っています。また、明治12年に日本工学会が創立された日でもあります。今号はその「土木の日」にちなんで、工事現場で活躍する建設機械を写真で紹介していきます。

おまけ

こんな機械もあるよ

バックホウ



土を掘ったり、削ったり、すくったりする機械。先端を棒状やハサミ状のものに付け替えることで、コンクリートなどの取り壊し作業にも使用できる。バケットは一般的なもので1度に約1.0m³(60kg米俵約30俵分)もすくうことができる。

コンクリートポンプ車



コンクリートミキサー車によって運ばれてきた生コンクリートを油圧式ポンプを使って輸送する機械。コンクリートを離れた場所に圧送するために輸送管のついた折りたたみ式のブームをのぼす。このポンプ車によって10m以上の高い所や低い所にもコンクリートを運ぶことができる。

ロード(タイヤ式)ローラー



道路に敷き詰めたアスファルトなどの舗装材を締め固めて仕上げをする機械。車両は約10tもの荷重があり、前後3~4個ずつのタイヤで平らに仕上げていく。そのときのアスファルトの表面温度は100℃を越える高温になっている。

タンバ



道路などの下の部分の路盤材を振動によって締め固める機械。小型であるため、歩道など幅の狭い道造るときに使用する。

バイブレーター



生コンクリートを型枠の中に流し込んだ後、先端が振動するホース状バイブレーターを突き込むことで、コンクリートを隅々までムラなく充填できる。

クレーン付台船



陸上で使用されているクレーンをとりつけた台船。川や海の水上で石やブロックを吊り上げて設置したり、水中の土砂を取ったりするときに使用する。吊り上げるものの重さに応じて主に25t~400t吊りのクレーンを付けた台船がある。

路面切削機(ロードカッター)



道路の傷んだアスファルト表面を切削するときに使用する。表面から約5cm程度削り取ることができ、そこに新たに綺麗なアスファルトを舗装する。削った古いアスファルトは前のダンプトラックに直接積込まれ、再利用するため工場へと運ばれる。

アースオーガー(earth auger)



earth(地面) auger(鉋)からもわかるように、地中に杭などを設置するときに回転しながら地盤を掘り進む。硬い岩石の層なども掘ることができる。らせん形の鉋で穴を掘削する基礎工事機械の一種。地盤を回転させながら掘るので、叩いたり落として掘るより振動が少ない。

ハンドブレーカ



先端部のノミ(チゼル)を振動させ、その衝撃力により岩石、コンクリートなどの構造物を砕く、手持ち用の機械。コンクリートなどの構造物を一部砕いたり、簡易に削るときに使用する。

バイラー(油圧式圧入引抜機)



矢板をつかんで上に乗り、その矢板を反力にして次の矢板を油圧の力で圧入していく機械。振動・騒音が少ないのが特長。矢板を振動させて地盤を緩めながら押し込むよりはるかに振動が少ない。

淡路島の湧水・名水(その2)

湧き水は、遙か昔から、地域の人々の生活用水として利用され、また信仰の対象ともされてきました。そうした湧き水が淡路島にも多くあります。



御井の湧水

■「御井の湧水」MAP⑥

御井の湧水は妙見山に降った雨が花崗岩に透かれ湧出したものです。仁徳天皇が御料水として運ばせていた「淡路島の寒泉」はこの水であるとも伝えられています。

バス停佐野小井から徒歩で山へ登ること約20分、竹が覆い繁る中に小さな小屋があります。そこでは、今でもこんこんと絶え間なく水が湧き出ており、多くの人がこの水を求めて訪れます。

■「船瀬の湧水」MAP⑥

昔、漁師が海で仏像を引き上げ、これを洗い清めたと言われる湧き水。どんな湧水期にも枯れることがなかったと言われています。

■「恋の湧水」MAP⑥

その昔、とある森の中で幼い男の子と女の子が仲良く遊んでいました。その姿がまるで恋人同士のように見えたことから、この森を「恋の森」と呼ぶようになり、森の中の泉を「恋の湧水」というようになったといわれています。そばには恋森明神が祀られており、ここにお参りすると夫婦円満になるとか。

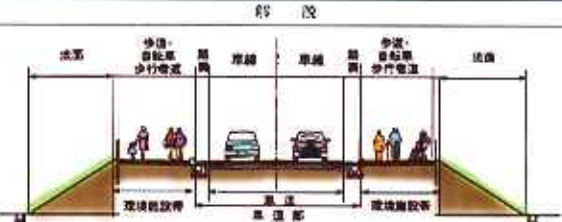
- 「御井の湧水」…淡路市佐野(佐野小井バス停より徒歩約20分)
- 「船瀬の湧水」…淡路市五色町島前(船瀬海水浴場・キャンプ場近く)
- 「恋の湧水」…南あわじ市白田(白田バス停近く)



恋の森

土木用語集

意外と難しい土木用語。そんな土木用語について少しずつ紹介していくコーナーです。今回は、道路に関する用語です。

用語	解説
道路の構造	
車道	道路の中で、車両が通行する部分を指す。
歩道	横断勾配3%以上の急な登り坂において速度の著しく低下する車両を通行させることで、交通の流れをスムーズにするための車道。
歩道(自転車道)	歩行者(自転車)が通行する部分を指す。
法面	土や岩石により作られる人工斜面をいう。
バイパス	河川等の危険区間、又は山岳部等の危険区間を迂回する道路。B.P.とも呼ぶ。
防護柵	主に、走行中の進行方向の側面が道路外、対向車線又は歩道等に飛び出したりするのを防ぐため。たとえば、ガードレール、ガードパイプ、転落防止柵がある。
デリネーター(路面隆起線)	カーブ区間や直進方向を見誤りやすい区間、視界の発生しやすい区間などに設置される反射体。デリネーターともいう。
区画線	道路の構造の安全または交通の円滑を図るために路面に描かれた線または記号をいう。横断歩道や「止まれ」記号など。
道路情報板	道路利用者が事前に通行できるよう、工事中や異常気象時による通行規制の表示を行う看板。
路標名	通り、陸田、終点の地名で路標を呼ぶ。具体的には、阿方路長路標、高良路長路標、大谷路標など、路本路標路標など。

淡路の土木・建築遺産を探ねて(第9回) MAP⑦

~江井、町家の面影~

播磨灘に突き出した江井岬の根本に位置する江井港は、阿波蜂須賀藩邸が設置されて以降に急速に海運業が発展し、船待ち所として廻船業者で賑わった街です。

その中に、今でも当時の面影を残す古民家(町家)が点在しており、素晴らしい街並みが残っています。

また、この界隈を歩いていると、どこからともなく線香の心地よい香りが漂ってきます。皆さんもご存じのとおり地場産業である線香作りは江戸時代の終わりごろ、廻船業者が各地から原料や製品を運び、売りさばっていたことから、生み出され繁栄した地場産業ではないでしょうか。

現在では、全国の約70%を占める産業に発展しています。線香の香りとともに、そんな町家の面影が残るこのような風景を何とか保存したいものです。



ふるさとの風景

淡路鉄道から始まった(その9) MAP⑧

今回は鉄道敷きが農道に作りかえられたお話です。農道とは土地改良法に定められる農業用道路のことで、農業生産の近代化、農業生産物の流通の合理化を図る目的で整備されます。

その農道ですが、全長4.9kmと事業規模が大きかったことから一般農道事業に加えて農免道路という事業も活用されました。両者は見た目は同じですが、その整備の財源に揮発油税(ガソリン税)が用いられているかいないかに違いがあり、「農林水産事業者に対し課税を免除する」ということから農免道路と呼ばれています。実際には免除されていませんが、その相当額が農免道路整備に活用されています。

市村駅を中心に神代方面は平行して国道28号が整備されていたため1車線の幅で、一方の榎列方面は県道・町道が整備されていなかったため2車線の幅で整備が行われ、昭和46年の用地買収から8年の歳月をかけて昭和54年7月に全線が開通しました。

開通後は、三原平野の農業の振興だけでなく地域の安全と発展に寄与しており、島内で唯一「電車道」の愛称が定着しています。



神代・市村駅



一本刈駅(阿波蜂須賀藩邸とも隣接)

